

加工・業務用向け野菜の取組事例

1. 経営体の概要

- 名 称 農業生産法人有限会社太陽ファーム
- 所在地 宮崎県都城市高木町
- 従業員数 役員3名、社員20名 パート23名
技能実習生22名
- 経営面積 30ha
- 契約栽培 300ha(約200戸)
- 主な栽培作物 キャベツ、甘藷、にんにく、
しょうが、こまつな、ほうれんそう、にら
- 販売先 冷凍食品メーカー、外食産業チェーン、
弁当惣菜向けベンダ等

3. 今後の目標と課題への取組

加工・業務用野菜の生産から物流まで一元管理体制を構築し、実需者の求める周年安定供給を実現するため、以下の取組を実践。

- スマート農業の取組を進め、更なる効率化・安定生産を図る。
- 各部門間の情報共有や事務の効率化・省力化のため、kintoneシステムを導入。今後、システムエンジニアを育成する予定。
- 生産性の向上を図るため、自動畑地灌がいシステムを導入。今後、技術的確立を目指す。
- 契約生産者の組織化及び機械化の更なる推進。

2. 取組の経緯と特徴

No:15

- 加工・業務用野菜の取組については、平成9年にマキタ運輸が農産物加工センターを物流拠点である現在地に設置し、カット野菜の製造・販売を行っていたが、原料野菜の安定調達を図るため、平成15年12月に太陽ファームを設立し、野菜の生産・販売及びカット野菜等の一次加工品の製造・販売を行っている。
- 人手不足の解消及びコスト削減のため、令和2年度スマート農業技術の発展・実証プロジェクトに参加し、経営管理システム(kintone)、自動畑地灌がいシステム及び自動操舵システムなどのスマート農業を導入することにより生産性の向上を図っている。
中でも、GPSレベラーを導入したことにより、ほ場の均平化と停滞水の解消による、生育・単収向上、除草時間の削減、農地集積の促進などの効果が表れている。
- 契約生産者に対しては、技術指導や生産者グループの組織化・機械化を支援するなどして、規模拡大に寄与している。
- 収穫した野菜は、自社工場への出荷及び加工原材料用として販売を行っている。自社工場の製品は、主に冷凍食品メーカー等の食品製造・加工事業者へ販売している。



太陽ファーム



GBS搭載トラクター

<お問い合わせ先>

農業生産法人有限会社太陽ファーム (0986-27-5400)